

本庁地区社会福祉協議会

## 幽玄の世界 ホタルの舞



七月六日、七日の両日、本庁地区会（本庁地区内の自治会・町会の集まり）の主催、松戸まちづくり会議の協力で、ホタル観賞の夕べが開かれました。三年前、地区会は松戸神社の協力で境内の一角にヘイケボタルのビオトープを設置してホタルの幼虫を飼育しているそうです。昨年はコロナ禍で実施を見合わせましたが、今夏は密集を避けるため開催告知や広報を最小限にとどめて実施されました。午後七時～九時頃まで、二日間で四〇〇名ほどの老若男女が訪れ、ビオトープ内を煌びやかに飛び交うヘイケボタルの舞いに歓声をあげていました。ホタルは十日ほど光っていました。



ホタル鑑賞の夕べ  
松戸神社境内に  
作られたビオトープ



本庁地区社会福祉協議会

### 貸し出し用車椅子 新規2台配備！

新型コロナウイルスワクチン接種が始まり、一時的に車椅子のご利用希望者が多くなり、ご希望に添えない事態が発生いたしました。本庁地区社協では、軽量で使いやすい介助型車椅子を2台新規購入しました。

これで、計7台の車椅子を常備できました。無料で一日～二週間までご利用いただけます。お問い合わせは本庁地区社協事務局まで。

### 美味しい！お弁当を配る ふれあい会食会

今年度初めてのふれあい会食会が7月11日、松戸市民会館で開催されました。コロナ禍のため、皆さんで食卓を囲んでのランチはできませんが、スタッフによる心づくしのお弁当を用意しお配りしました。



# 町が町 ひろば 地区エリア

## 規模で、 行動は足元から！

新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛中、わが身の周りを見つめなおす機会に恵まれたのは、新たな発見であった。アルバムや手紙、様々な印刷物などを読み返し、改めて家族や仲間の大切さを認識した。

また、近隣を散策することが多くなり、各家の庭木や花々の美しさとともに、手入れの良さが感じられ、晴れやかな気分を味わった。自治会の掲示板に丁寧に貼られたポスターやチラシを見るたび、町会役員の方のご苦労が偲ばれる。ゴミ集積所とその周りを丁寧に清掃している方の姿には、心から感謝した。

# お祭りを盛り上げる！婦人部

納屋川岸町会

女性の力で町会を支えようと婦人部が出来て二十年以上になりました。婦人部の出番の中でも大きな催しが松戸神社のお祭りです。町内の神酒所接待を受け持ち、食材などの買い物、仕込み、調理などを皆で分担して準備をするのです。

神酒所には、町会の皆さんの多くが顔を出し、ちよっとおしゃべりをしていく人、腰を据えてお神酒やお茶を楽しみむ人たちで賑わい、手作りのおにぎり、ぬか漬け、おでん、焼きそばなどが並びます。山車を曳いた子どもたちには、お弁当やソーセイジ、アイスク

リームやお菓子を用意し、ゲームの手配もするなど大忙しです。

男性中心だったお祭りに、女性や子どもたちも参加しやすく楽しい雰囲気になり溢れるようになりました。普段あまり顔を合わせない人たちともうち解けて話が弾む良い機会となっており、地域住民の交流の場となっており、安全や防犯にも役立っています。

心休ませぬコロナ禍を乗り越えて、これから私たちが女性の活躍の場を広げていきたいと思えます。



納屋川岸の撫子：記

# 坂川献灯まつり

とうもろこし

松龍寺と「とうもろこし市」

平成十九年以来、旧松戸宿の夏の風物詩として市民の皆さんに親しまれている『坂川献灯まつり』とうもろこし市は、コロナ禍により昨年度に続き今年も中止を余儀なくされました。このお祭りは、旧松戸宿の名所松龍寺内にある「すくも観音の縁日」に『とうもろこしを食すと「四萬六千日」分の功德を授かる』との謂れがあり、このとうもろこし市と坂川での「献灯と灯籠流し」を合体して始まったそうです。

松龍寺は、徳川三代の將軍に仕えた旗本高木広正公(愛知県知多半島の常滑城主)の次男、正次公が、父広正公の追善供養のため、慶長一八年(一六一三年)現在の下横町と小山の境目あたりに「松龍寺」を建立しました。境内には松戸宿最初の旗本領主、高木筑後ノ守の五輪塔、墓や、松戸宿代々の名主の墓などがあります。小金牧での鹿狩りでは、八代將軍吉宗などの將軍休憩所となり、寺勢を誇っていたようです。

松戸宿の名所になっていた「すくも観音」(すくもとはお米のみ殻)が、松戸二丁目付近から、今の松龍寺へ移されたのが、幕末の頃とされ、八月九、十日の縁日は、太平洋戦争前まで参道の両側に焼きとうもろこしの出店が並び、「とうもろこし市」は松戸宿の大きな年中行事のひとつになっていました。

こうして、『坂川献灯まつり』は周辺商店会や有志の皆さんの協力を得て始まり、地域の振興と松戸宿の伝統と文化を守り引継ぎながら、人々の心を癒す楽しい祭りに発展しました。来年こそコロナが終息し、甘くて美味しいとうもろこしと、風情がある献灯まつりを楽しみたいですね。 広報部会：記



指定文化財  
作業中





思いは地球

こうした、何気ない気づかひや思いやりの積み重ねが、地域環境を維持する基になっていることを気づかせてくれました。  
「思いは地球規模で、行動は足元から」という言葉の大切さを実感する日々である。

富田鎮雄(陣ヶ前自治会)

### わが町の防犯パトロール

夕方になると、町内をくまなく走るオートバイの音が響きます。白いヘルメット、緑の防犯チョッキに青のネオンステックがトレードマークの『安全・防犯パトロール』小山貴和夫さんです。

夕暮れの事故発生の多くなる時間帯を、毎日決まったコースで回り、無灯火の自転車や空き巣狙い、追い越しスリなどの不審者に目を光らせます。保育園の園児や児童の下校も見守っています。

空き家が多くなるなど、近所同士でも



会話がすくなくなつた昨今、長年にわたりパトロールしてくださる小山さんは頼もしい限りです。これからもよろしくお願ひします。

山下の風：記(松戸山下自治会)



### 第9回写真コンクール作品募集

●課題・対象／地区社協の部会活動、地区内及び市内のイベントや風景  
※令和2年12月〜令和3年11月に撮影された作品に限ります。

●応募要項／1. 作品は紙焼きしたもの、サイズは2L以上八つ切りまで。デジタルデータのある方は本庁地区社協アドレスにメールにて添付送信、またはCD等でご提出ください。  
2. 作品と一緒に、応募用紙に必要事項を記入しご提出ください。

※ご応募いただいた作品、データの返却はいたしません。ご了承ください。

●応募締切／令和3年11月12日(金)

●入賞発表／広報誌「ほんちょう」37号誌上に掲載いたします。

### 俳句・川柳、エッセイetc投稿募集

●応募要項／俳句・川柳合わせて一人2点まで。エッセイは1点・300字まで。未発表のものに限りです。氏名(ペンネーム可)、所属町会・自治会、連絡先を明記しご提出を。

●応募締切／令和3年11月12日(金)

※掲載の可否につきましては広報部会で判断させていただきます。

●応募資格／写真コンクール、俳句・川柳、エッセイともに本庁地区社協エリア在住・勤務の方ならどなたでも可。



松龍寺山門(松戸市) ※現在、解体修繕中



すくも観音

# 花いっぱい! 彩の町

新型コロナの世界的パンデミックが発せられて一年半が経ちました。コロナ禍終息の先が見えない中、私たちの街角で見かけた、心ませ癒してくれる『花』の写真をあつめてみました。美しい花、可愛い花、清楚な花、優しい花。誌面で『花の饗宴』をお楽しみください。



## 感染拡大により 「第49回本庁地区市民運動会」中止!

7月末から8月にかけて、新型コロナの感染者大幅増に伴い『緊急事態宣言』と『まんえん防止等重点措置』を合わせて9月現在、33の都道府県に発出されました。

この状況のもと、本庁地区社協役員会では当初予定した「第46回本庁地区市民運動会」(本庁地区会共催)の中止し、研修・講演会などの実施を見合わせることにいたしました。各部会の通常活動については、当面の予定をお知らせいたします。ただし、感染拡大状況によっては再変更や中止の措置もごさいますのでご了承ください。変更などについては各部長または事務局から連絡・告知いたします。

## 各部会からのお知らせ 年内スケジュール

### ふれあいサロン「だんらん」

9・10月は中止。11月9日、12月7日実施予定。会場は松戸市民劇場第2・第3会議室。

### ふれあい会食会

10月10日は会食はなく「映像での旅行と赤べこ絵付体験」。

11月28日、12月19日は弁当のテイクアウトを実施します。

会場は松戸市民会館301

### 子育てサロン 「なかよしちびっ子クラブ」

11月25日、12月16日。  
会場は三丁目東自治会館2F。

### 研修部会

年内の研修・講演会の予定はありません。

### 健康増進部会

第49回本庁地区市民運動会は中止。

### 広報部会

- 小堀 眞誠
- 中山 廣子
- 関 昭子
- 石井 榮子
- 村上 有一

「東京五輪二〇二〇」が閉会、テレビは五輪一色、お祭り騒ぎだった。無論、アスリートには何の責任もない。▼その陰でコロナ感染者数は連日記録を更新し続けるという最悪の事態。医療従事者、保健所の皆さんのご苦勞を思うと感謝しかない。▼「一斉休校の傷痕今も」ひとり親働かず、一年無収入、再就職月給六万円(東京新聞8月2日付1面)の見出しが目に飛びこんできた▼悲劇は昨年春、安倍晋三首相が唐突に発した小中高校の全国一斉休校の要請からだった。都内に住む四〇代女性と中学生の長男、小学校低学年の長女の三人家族の過酷な物語である▼派遣社員で在宅勤務が難しい業務。子どもを残して出勤するわけにもいかず、五月連休明けに退職。通常の授業に戻った十月に職探し開始▼子育て中のひとり親がネックで苦戦を強いられ、ようやく今年三月に働き始めたが、月給は前職の半分、六万円。食パンと水道水で空腹を満たしたこともあったという▼一方、「一に自助、二に共助、三に公助」を臆面もなく謳う政府は冷たい▼「新型コロナ」は、多くの示唆に富んだ「気づき」を我々に授けてくれる。

ほんちようの耳袋爺

— 編集後記 —